

第 18 回世界肺癌学会議 開催結果報告

1 開催概要

- (1) 会議名 : (和文) 第 18 回世界肺癌学会議
(英文) The International Association for the Study of Lung Cancer 18th World Conference on Lung Cancer
(略称 : IASLC WCLC 2017)
- (2) 報告者 : 第 18 回世界肺癌学会議 Co-President 浅村 尚生
- (3) 主催 : 第 18 回世界肺癌学会議組織委員会、日本学会議
- (4) 開催期間 : 2017 年 10 月 15 日 (日) ~ 10 月 18 日 (水) 4 日間
14 日は、プレセッションのみ
- (5) 開催場所 : パシフィコ横浜 (神奈川県横浜市)
- (6) 参加状況 : 82 カ国・地域・6,764 人 (国外 5,167 人、国内 1,597 人)

2 会議結果概要

- (1) 会議の背景(歴史)、日本開催の経緯 :

世界肺癌学会議 (WCLC) は、国際肺癌学会 (IASLC) が開催する国際会議であり、1978 年の第 1 回から 2 年毎の開催であったが、2015 年の第 16 回より毎年開催となっており、本会議で 18 回を迎える。肺癌学分野で最も歴史のある国際会議である。

日本での開催は、第 9 回以来、17 年振り、3 回目の開催である。肺癌の基礎研究 (増殖因子等の生物学、新しいバイオマーカー、TR 研究)、臨床研究 (大規模前向き臨床試験の成果、新薬の開発、新しい外科治療、放射線治療における新規テクノロジー)、禁煙等の社会疫学的研究、肺癌のサバイバーシップなどの多岐の内容に渡って、全領域的、全職種的に研究発表と討論を目的として開催される事になった。

- (2) 会議開催の意義・成果 :

肺癌を始めとする胸部悪性腫瘍を中心に据え、分子生物学的基礎研究、疫学研究、臨床 (診断、治療) 研究、advocacy など、専門分野を異にする世界を代表する研究者が、一堂に会して肺癌という世界的に最も死亡数の多い臓器癌に多方面から対峙することにより、我が国及び世界の肺癌学の発展に寄与し、国民および世界の人々の健康を守ること。

本会議では、近年肺癌領域で進歩が目覚ましい免疫チェックポイント阻害薬に関するセッションが特に注目を集めた。免疫チェックポイント阻害薬の開発状況や臨床試験に関する報告は今後の肺癌臨床の変化に直結する内容であり、多くの聴衆が参集した。また 2017 年は肺癌 TNM 分類の第 8 版が発効された年であったため、新 TNM 分類を使用した研究報告が外科領域を中心に多くなされた。このように肺癌診療に関する最新の事項が闊達に議論される学会議となった。

(3) 当会議における主な議題（テーマ）：

「Synergy to Conquer Lung Cancer」をメインテーマに実施した。

(4) 当会議の主な成果（結果）、日本が果たした役割：

本会議と第58回日本肺癌学会学術集会（会員数7,000名以上）を同時開催することにより、今までにない規模での両学会へのより多くの研究者の動員を促した。特に、国際学会に参加する機会の少ない若手研究者にとっては、世界最先端の研究者と直に触れ、発表の場を持ったことにより、将来的な留学等の足掛かりとなり、肺癌学に関する研究を一層発展させる契機となった。また、研究者のみならず「肺癌の予防」「サバイバーの受け入れ」「患者支援」等をテーマに、横浜市と強調して肺癌死亡を減らす、市民啓発の契機となった。

(5) 次回会議への動き：

2018年に開催予定の第19回世界肺癌学会議（WCLC2018）は、カナダ・トロントで開催されることになった。

(6) 当会議開催中の模様：



10月15日 Opening Ceremony①



10月15日 Opening Ceremony②



プレナリーセッション



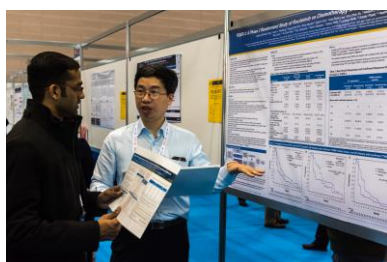
シンポジウム・セッション風景①



シンポジウム・セッション風景②



シンポジウム・セッション風景③



ポスターセッション



展示会場風景①



展示会場風景②

(7) その他特筆すべき事項：(他国との招致競争等、日本開催にあたり努力した事項等)

本会議は、2017年における肺癌の臨床、研究、社会啓発の全領域を、まさに最前線、最先端においてカバーした学際的、国際的な会合となり、世界中の肺癌研究者が集結した。2017年開催の大きな特徴は、第58回日本肺癌学会学術集会とのタンデム開催にしたことであり、両学会において、その利点は大変大きかった。日本には、会員数7,000名を越える日本肺癌学会が活発に学術活動を行っている基盤があり、肺癌に特化したこのような大きな国内学会を有する国は日本以外に他になく、日本への招致が決まった背景にも、地道な国内での学会活動があったことから、IASLCが日本に大いなる期待を寄せことが挙げられる。2017年のWCLCでは、日本肺癌学会学術集会と重ねたことで、両学会へより多くの研究者の動員を図ることができた。またこの学会期間中に市民公開講座を設けたり、患者家族の学会参加を促すことで、横浜市などとも協調して肺癌死亡を減らす社会啓発にも積極的に取り組むことができた。

3 市民公開講座結果概要

- (1) 開催日時：2017年10月15日(日) 14:00-16:00
- (2) 開催場所：パシフィコ横浜 アネックスホール 第10会場 F205
- (3) 主なテーマ、サブテーマ：喫煙・受動喫煙と肺癌
- (4) 参加者数、参加者の構成：150名(主に横浜市在住の一般市民)
- (5) 開催の意義：

日本人の喫煙率は、18.2%まで低下しているが、受動喫煙防止対策は諸外国に比べ、大きく遅れたままである。昨年発表されたタバコ白書では、受動喫煙と肺癌の因果関係が「確実」とされた。2020年のオリンピック、パラリンピックに向け、受動喫煙防止の法制化も話題になってきたが、肺癌以外の健康被害まで考えれば、受動喫煙防止対策は喫緊の課題である。

- (6) 社会に対する還元効果とその成果：

第1部では、「タバコ白書」2016というテーマについて、第2部では、「タバコフリーか、スモークフリーか ～21世紀の新たなタバコ問題の地平に向けて～」を、また第3部では、「受動喫煙と肺癌について」をテーマに、3人の演者からタバコの害はもとより、受動喫煙と肺癌について分かりやすく説明をし、市民に喫煙が及ぼす影響について一緒に考え、受動喫煙防止に向けた、社会啓発に取り組むことができた。

4 日本学術会議との共同主催の意義・成果

日本学術会議との共同開催となったことから、日本学術会議を通じての広報活動により、多くの参加者を得ることができた。また、オープニングセレモニーには、皇太子殿下の御臨席ならびに内閣総理大臣からメッセージもいただき、参加者にとって印象の残る会議とすることができた。WCLC2017により、肺癌学に関する研究者が一同に会する機会が設けられたことは、今後わが国の肺癌研究・治療においてさらなる発展に大きな影響を与えたものと考えられる。

※ 当資料は日本学術会議のホームページ等で公表する予定です。
会議開催中の写真データとともにご提出願います。